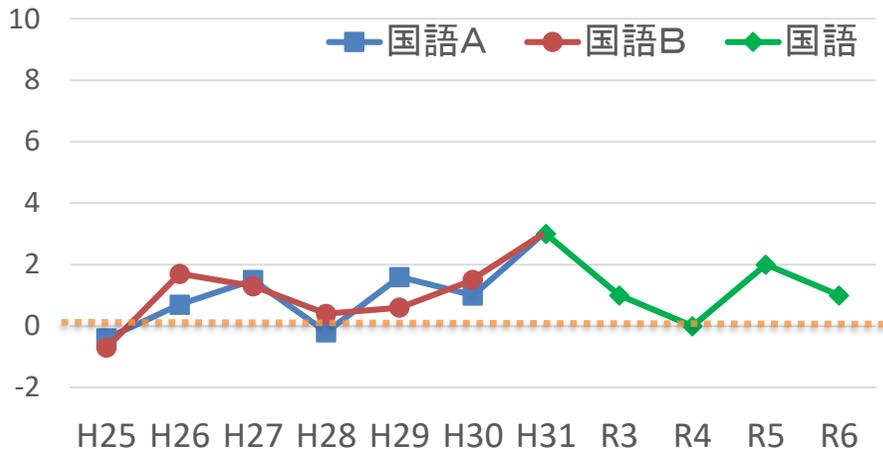


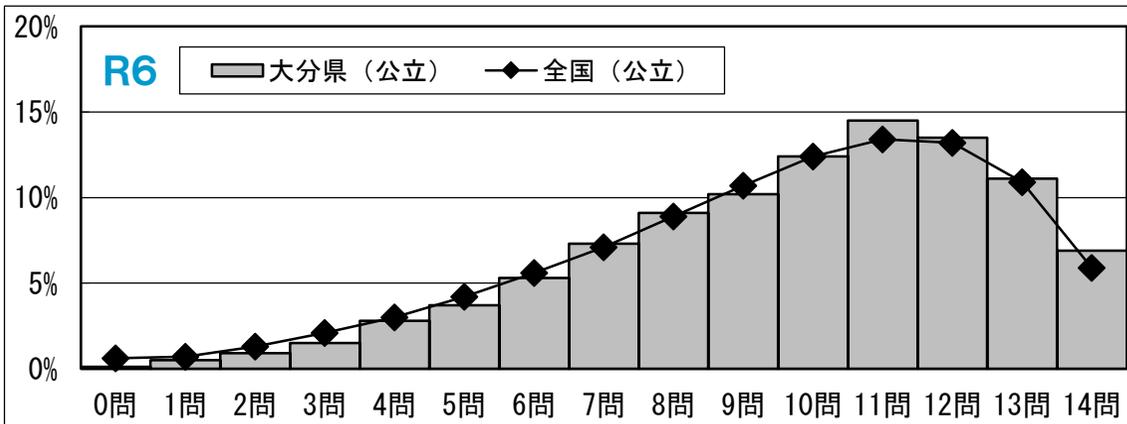
結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



○全国平均を上回る。

4 正答数度数分布



○全ての観点で全国平均を上回る。

- 低学力層の児童の割合(正答率20%以下)が全国平均より少ない。
- 正答数が全国平均以上(9問以上)の児童の割合は全国値を上回る。

2 領域別の結果

学習指導要領の内容	県	全国平均
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	65.7	64.4
(2) 情報の扱い方に関する事項	87.6	86.9
(3) 我が国の言語文化に関する事項	76.9	74.6
A 話すこと・聞くこと	60.6	59.8
B 書くこと	70.4	68.4
C 読むこと	73.8	70.7

○全ての領域で全国平均を上回る。

3 観点別の結果

観 点	県	全国平均
知識・技能	71.2	69.8
思考・判断・表現	68.0	66.0

○全ての観点で全国平均を上回る。

- 低学力層の児童の割合(正答率20%以下)が全国平均より少ない。
- 正答数が全国平均以上(9問以上)の児童の割合は全国値を上回る。

課題が見られた問題と指導の改善

正答率が低かった問題

大問2 設問二【平均正答率 大分県60.6% 全国56.6%】

目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き方を工夫することができるかどうかをみる問題。

「たてわり遊び」のよさを書いた文章

みんな仲良し「たてわりはん」
わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に応えんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アキょうぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるころだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをなげるようにしています。



取材メモ

「たてわり遊び」について

- 6年生がくふうしていること
- 遊びたいことを下級生に聞く
- ルールをくふうする

ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる
下級生に聞いたこと

- 1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
- 3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
- 4年生 みんなが楽しそうであれしかった

あとの条件に合わせ、
 に入る内容を
書く。

<条件>

○「たてわり遊び」のよさ
について考えたことを
書くこと。

○「取材メモ」の下級生
に聞いたことから言葉
や文を取り上げて書く
こと。

○60字以上、100字以内
にまとめて書くこと。

調査結果から見える児童の実態

【正答】

「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生や、「みんなが楽しそうであれしかった」という4年生がいます。このように、「たてわり遊び」のよいところは、学年をこえた交流ができるころだと思えます。

【誤答例】

6年生が下級生に遊びたいことを聞いたり、ルールを工夫したりしています。例えばドッジボールでは、上級生が遠くからボールを投げています。1年生は「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」と言っています。

- ▲「たてわり遊び」のよさを認識できているものの、そこから自分の考えをもつことができず、事実を自分の考えのように書いている
- ▲書く目的や意図が明確ではなく、「たてわり遊び」のよさについて書く必要があることを捉えられていない

指導の改善

○ 事実と感想、意見とを区別して書くには、事実を客観的に書くとともに、その事実と感想や意見との関係を十分に捉えて書くことが重要である。あわせて、文末表現に注意することも重要である。

【学習指導のポイント】

- ☑ 内容に注目して、文章全体に一貫性があるかを確認したり、文末表現に着目して、事実と意見(考え)を適切に区別しているか、事実と意見(考え)を混同していないかを確認したりする場面を設定する。
- ☑ 伝えたいことを支える事実としてふさわしいものが取り上げられているかを確認したり、事実を裏付けとすることでどのような意見(考え)を伝えたいのかを確認したりすることができるよう、児童同士で書いた文章を読み合い確かめ合う場面を設定する。
- ☑ 事実と意見(考え)を区別して書くことができている場合は、主語や文末表現を意識して文章を見直すよう促す。